



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.5.10 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ (info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

解説: 幼児教育その4「音楽表現」

1. 「音楽表現」のねらい

次は夏見台幼稚園・保育園の音楽表現に対する考え方です。

リズムを身体で覚えること。耳を鍛えること。音を聞き分けられる力。しかしどんな活動にも共通するキーワードは、やはり、

「楽しい！うれしい！やってみたい！」

になります。まず「意欲」です。

自分の声も聞く必要があります。自分の声を調節してハモるわけなので、耳がきちんと聞こえていなければなりません。ピアノの音を聞いて、その音に合わせて歌うこともそうです。

赤ちゃんには「わらべうた」を聞かせます。これには動作が付きます。一緒に子どもと遊んだり、スキンシップをしたり。その中で自然とリズムも身体で覚えます。

2. なぜ「わらべうた」なのか？

わらべうたは人と人との関わりを重要視しています。集団遊びにもつながります。お母さんと子どもと一緒に手遊び的な動作をします。

例えば、お母さんの膝の上に乗せてトントンしてあげてからストンとはずみをつけて膝から落とす…

**わらべうたは絵本と同じで、
ぬくもりや信頼を高めるツールです**

赤ちゃんにわらべうたを歌う場合には、声を高めにします。高い方が、赤ちゃんが認識しやすいのです。赤ちゃんがとらえやすい響きがあって、あまり低い声では反応しないのです。

かつて研修で、岩手県の遠野のわらべうたの語り部のおばあさんからわらべうたの良さを教えてもらいました。これは、

「人間を育てる歌」

です。この歌を歌ってしかるべき動作をすることによって、子どもは見えてくる。目も耳も脳も刺激を受ける。昔の人の知恵と、

「人間としての誇り」

を伝えていっている。それがわらべうた。遠野に勉強に行ってますますわらべうたの意義が深まりました。これは人を育てる最高のツールです。



名誉園長 南部愛子

昔の日本では、お父さんお母さんは（農作業など）家の仕事を行いました。家ではおばあさんが子育てをする。親は暗くなるまで働いている、というパターンです。その間、おばあさんが歌を歌ってあげるのです。

わらべうたや昔話は、人から人へ伝承されて来たわけですが、なぜそうしたものが伝わってきたのかを教えてくれたのはその遠野の語り部のおばあさんがはじめてだった、と南部先生は話します。代々語り継がれてきている、のだと。

ただ赤ちゃんをあやすだけではなく、歌の中に「思い」が入っているというのですね。

小さなときからわらべうたに触れさせることの利点はいろいろありますが、幼児の「**集団遊び**」につながっているという点も見逃せません。

3. 「集団遊び」の意義とは？

たとえば「鬼ごっこ」例にとりましょう。

鬼は疎外の象徴です。みなに嫌われる。小さいときに遊びの中でそうしたことを経験しておくことに意味があります。すると人とは仲良くしなければいけないというバランス感覚が生じます。遊びを通じて学ぶのです。

集団で遊ぶことの大切さ。例えば、そのやっている遊びに途中で飽きてしまって「や～めた」と抜けてしまう。すると次は仲間に入れてもらえないかもしれない。ちょっとつまらなくても、一緒にやっていると楽しいときもある。自分で我慢するということも学べます。友だちにつき合う。他人に合わせるということも学べます。

最終的には、

「みんなで一緒にやるから楽しいのだ！」

ということがわかるように持って行きます。だから子どもは外に出て、友だちと集団で遊ぶことが大切です。「人は一人では生きられない」ということの原点こそ、子ども時代の「遊び体験」ではないでしょうか？

リズムの基本は鼓動です。心臓の鼓動と同じ一拍子を身体に染み込ませる。「トントントントン…」。それが身につくと次は、「トトン」とか「トントン、トントン」などの拍子ができてくる。基本は一拍子です。「トントントントン」歌いながら歩くことで、リズムが身につきます。将来的にいろいろな楽器を使うときにも自然に出てくるでしょうし、耳がよければさまざまな音をキャッチできます。



4. プロの演奏家の音楽を

生の演奏、できればプロの音楽家に直接触れさせたい。プロの方は真剣に歌ったり演奏したりするので伝わります。さまざまな楽器の音色を聞かせたい。

中学生や高校生に演奏をお願いしたことがありますが、大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんがやっていると「シーン」と聞きますね、子どもは。クラシックの長い曲などはあまり小さい子には無理かもしれませんが、3～5歳は聞きます。できれば短い曲がいいですが。乳児にはちょっと無理かもしれませんが。

5. わらべうたのもうひとつの意義

わらべうたは単に赤ちゃんをあやす、ということ以外に赤ちゃんの子ども目の動きを確かめるなどの役割も持っています。

「この子はちゃんとした機能を持って生まれてきているかな？」と確かめるわけです。きちんと真似ができるということは、感覚器や脳がきちんと機能しているというわけです。もしその場合に何かわかったら、早期に対処できます。

(終)